



国際交流協会（協働推進課内）

国際交流は



無所属
あさはらとしや
浅原俊也議員

問 グローバル化が進展する中で国際交流協会の担う役割は重要となっているが、協会を拡大強化する考えは。

答 法人化も含め、より良い組織となるよう、協会と協議していく。

問 多くの方が在住しているアジア圏など、新しく姉妹都市・友好都市を増やしていく考えは。

答 現時点では予定していない。

問 中学生などの夏休み短期留学制度を創設する考えは。

答 現段階でその予定はない。

多文化共生社会の推進を

国際交流協会と
実現に努力する

熱中症の予防・対策は

問 今年より導入された「熱中症特別警戒アラート」は命の危険もあることから、防災行政無線も使用するべきでは。

答 町公式LINE、防災安心ネットはりま、公用車などにより住民へ周知するため、防災行政無線の使用は考えていない。

問 暑熱避難施設「クーリングシエルト」の設置状況は。

答 7月1日の運用開始を目指し現在、指定可能な公共施設を取りまとめている。

問 エアコン等省エネ家電の購入補助制度は、熱中症予防、家計補助、CO2削減、町内産業育成など、大変効果のある政策と考えるが、現在、実施の予定はない。

答 町立小中学校体育館のエアコン稼働の時期は、令和8年の夏季に稼働予定である。

防災対策



無所属
たけうちもとより
竹内基就議員

問 元旦に「令和6年能登半島地震」が発生し大きな被害が出た他、偽情報なども問題になった。近い将来発生するとされる南海トラフ地震では、播磨町内でも最大震度6強を観測するとされるが、播磨町の対策や避難所の運営は。

答 災害時は人命救助を最優先に進め、町公式LINE、防災安心ネットはりまなどを通し正しい情報を発信する。平時は総合防災マップを全戸配布し、すべての方が防災を話題にすることで防災意識が醸成されると考えている。避難所は簡易テントや仕切り用段ボールによりプライバシーを確保しますが、全てを賄えるわけではないので、家庭での備蓄も啓発していきます。

避難所運営は
備蓄と災害協定
に基づき対応

特殊詐欺に関わる若年層も目立ち社会問題化している、被害を減らすためにも闇バイト対策は重要と考えられるが、対策は。

答 小学校高学年と中学生には情報モラル教育や、人としての生き方についての学習を実施している。福祉会館においては、若年層を含めた全住民を対象に、生活困窮や就労の相談について対応している。

闇バイト対策は

問 兵庫県では昨年も一年間で過去最悪となる特殊詐欺被害が発生した、その一方で闇バイトを通して



日頃からの備えが大事

歩道改修



チーム新星
かんきふみひさ
神吉史久議員

問 マウンドアップ形式の歩道は凹凸が多く歩きにくいという声は多く、徒歩や自転車移動しやすいまちづくりを進める必要があると考える。歩道のセミフラット化を計画的に進められないか。

答 セミフラット化には多額の工事を要するため、部分的な歩道改良を実施してきた。移動のしやすさという観点ではセミフラット化が望ましく、大規模改築時にセミフラット化に取り組む。

歩きにくい
歩道の改修は
大規模改築時に
セミフラット化

フラ整備プログラムの対象事業となった。早期事業着手に向け、要望を継続し整備推進に努める。

南高周辺の臭気調査を

問 令和5年度に行った議会と播磨南高校との交流会で、学校生活で臭いに悩まされ、時には強い臭いに授業に集中できないと聞いた。臭気調査を行う考えは。

答 臭気の発生源解明に視点を置き、現地調査などを実施する。

問 県道明石高砂線（通称浜国）の歩道は、古宮地区で途切れ途切れとなっている。県と連携して整備を進められないか。

答 令和6年4月改定の兵庫インフラ計画策定中。

問 路側帯幅や自転車道整備など、自転車通行しやすい道路改修を計画的に進められないか。

答 安全で快適な自転車利用環境の向上を図るためには、必要な路線を選定し、計画的に整備する必要がある。そのための自転車ネットワーク計画を策定する。



凹凸が多く通行しにくい歩道

防災訓練



チーム新星
ほそだたけお
細田武男議員

問 防災訓練は個々の危機のリスクを下げる訓練です。住民一人ひとりが自分事として関心を持って参加してもらえないよう、「人が行動を起こす条件」という視点から考えた広報は。

答 防災意識を高めるといふ観点で参加したいと思うような仕掛けやちよつと子どもを連れて参加してみようかなと思っていただけのような、工夫ができればと考えている。

参加者を増やす
ための広報は
啓発に努め
地道に周知してゆく

野良猫への餌やりは

問 公園などに住み着く猫への無分別な餌やりをする方に対し、どのように対応していくのか

答 無分別な餌やりについては相応の覚悟が必要な責任の重い事であることを理解頂くために、看板などで啓発し、動物との共生社会を目指す。

生活道路の安全対策は

問 通学時間帯に生活道路を抜け道として使用する自動車・バイク等の速度超過が問題となっている。住民の安全対策は。

答 地元自治会から抜け道として相談を受けた箇所は町内に8ヶ所ある。企業・自治会・住民・行政がそれぞれ考え、地道に交通ルールの順守や地域安全について啓発し、関係機関や警察と連携して対策を進めていく。



訓練を重ねる消防団